

## 社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年01月06日

計画の名称	羽島市における循環のみちの実現(防災・安全)											
計画の期間	平成 30 年度 ~ 令和 04 年度 (5年間)											重点配分対象の該当
交付対象	羽島市											
計画の目標	下水道整備を行い、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。											
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	436	A	434	B	0	C	2	D	0	効果促進事業費の割合 C / ( A + B + C + D )	0.45 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）				定量的指標の現況値及び目標値			
	定量的指標の定義及び算定式				当初現況値	中間目標値	最終目標値	
					H30	R2	R4	
1	地震発生時における交通機能確保を図るため、緊急輸送路・軌道上・避難所施設等から汚水排水を受ける管渠の地震対策実施率を39.2%（H30末）から 100%（R4末）に増加させる。							
	短期整備に位置付けた緊急輸送路・軌道上・避難所施設等から汚水排水を受ける管渠の地震対策実施率				39%	75%	100%	
	緊急輸送路・軌道上・避難所施設等から汚水排水を受ける管渠のうち、耐震化が行われている延長（m）/重要な管渠の延長（m）							
2	下水道処理場における長寿命化実施率を12.5%（H30末）から17.5%（R4末）に増加させる。							
	下水処理場における長寿命化実施率				12%	12%	17%	
	長寿命化実施済みの施設（箇所）/長寿命化実施すべき施設数（箇所）							

備考等	個別施設計画を含む	<input type="radio"/>	国土強靭化を含む	<input type="radio"/>	定住自立圏を含む	<input type="radio"/>	- 連携中枢都市圏を含む	<input type="radio"/>	- 流域水循環計画を含む	<input type="radio"/>	- 地域再生計画を含む	<input type="radio"/>

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間(年度)				全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	
		一體的に実施することにより期待される効果												H30	H31	R02	R03	R04	
		備考																	
下水道事業	A07-001	下水道	一般	羽島市	直接	羽島市	管渠(污水)	改築	羽島西汚水幹線他枝線(地震対策)	マンホール浮上対策	羽島市						11	-	策定済
	A07-002	下水道	一般	羽島市	直接	羽島市	-	-	効率的な事業実施のための検討	検討資料作成 1式	羽島市						0	-	-
	A07-003	下水道	一般	羽島市	直接	羽島市	終末処理場	改築	浄化センター処理施設改築	改築対象工事	羽島市						198	-	策定済
	A07-004	下水道	一般	羽島市	直接	羽島市	-	-	ストックマネジメント計画策定	計画・調査・設計	羽島市						46	-	-
	A07-006	下水道	一般	羽島市	直接	羽島市	終末処理場	改築	浄化センター処理施設耐震化	耐震診断・設計・耐震化工事	羽島市						179	-	策定済
												小計					434		
												合計					434		

C 効果促進事業

## 事後評価

### 事後評価の実施体制、実施時期

#### 事後評価の実施体制

羽島市事業実施担当部局（上下水道部工務課）において目標の達成状況やその要因を確認・とりまとめを行い事後評価を実施

#### 事後評価の実施時期

令和7年12月

#### 公表の方法

市ホームページに掲載

### 事業効果の発現状況

#### 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況

- ・地震対策の実施により、地震における重要な管渠の安全性が向上した。
- ・長寿命化対策の実施により、処理施設の機能を確保した。

#### 定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）

### 特記事項（今後の方針等）

引き続き早期に事業効果が発現できる箇所について、計画的に下水道整備を進めていき、安全・安心、快適なまちづくりを推進する。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	100%	処理場の長寿命化対策を優先して行ったことにより、当初計画で想定していた事業進捗に遅れが生じたため。
	最終実績値	42%	
2	最終目標値	17%	平成27年度の長寿命化計画策定後、更新事業はストックマネジメント計画へ移行となった。令和元年にストックマネジメント計画を策定したところ、平成27年時と比較し劣化設備が増加したことにより、当初目標値を超過し更新事業を実施したため。
	最終実績値	47%	